

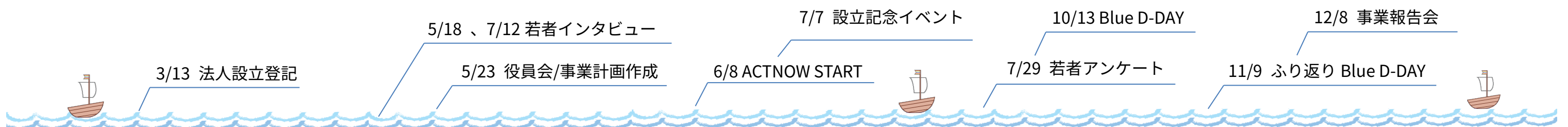
## 第1号議案 2018年度事業活動報告に関する件

○目標：組織基盤を固めて、事業を行い、目標とする成果が出るように、3つの基礎力を付ける

(1) メッセージ力～共感を得られる伝え方 (2) 事務局力～支援者のフォロー体制の確立 (3) 資金力～各種事業を通して支援者を増やし、専属の事務局員を雇用する目途を立てる。

○実施事業：目標を達成するために、下記の事業計画を立て、実施した。

	事業名・内容	成果	課題
1. イベント開催	(1) 設立記念事業の実施 (7月7日) みなと計画がスタートし7ことを広く周知するため、より多くの方にお越し頂けるよう様々な方の出来ることをリレーしてつなぐ24時間イベントを開催した。	・合計27セッションの発表、講演、ワークショップが行われた。参加者は79名、発表者28名の合計107名の方にお越し頂いた。 ・事前事後の新聞掲載もあり、一定のPR効果があった。	・みなと会員を増やすことを目的としていたが、目標には達しなかった。 ・このイベントを通して、みなと計画の意義を理解してもらいたかったが、そこまで手が回らなかった。
	(2) フォーラムの開催 (10月13日) 若者との接点を作ることと、若者たちが気づきや出会いを得られる場を作ること为目标に開催した。	・10セッション、参加者26名、登壇者21名、スタッフ12名の合計59名の参加。 ・NPO法人 ezorock との連携が実現。 ・学生チームと、その後も続けられる関係性を構築。	・集客に力を入れたが、新規層の開拓には至らなかった。 ・市内の多くの大学生へのアプローチがいかに困難かを思い知らされる結果となった。
	(3) 事業報告会の開催 (12月8日) 会員向けに、一年間に行われた事業を説明した。単なる報告ではなく、会員同士や関わる若者との交流も図れるようにした。	・正会員・みなと会員合わせて16名の参加。 ・アンケート調査結果を抜粋して掲示した若者の声の部屋が評判になる。会員と若者との間接的なコミュニケーションが行われた。	・日程が合わなかった会員には、別日程にしたり、メールでの送信をしたりしたが、会員間の交流も目的にしているため、早めの日程調整を行い、可能な限り皆さんが参加できるようにしたかった。
2. 若者を知る事業	(1) 若者へのヒアリング事業 若者がいま必要としているサポートを知るために、若者の声を実際に聴く事業を行った。	・大学生2名へのインタビューを実施。 ・大学生25名へのアンケート調査を実施。 ・事業報告会において、生の声の力の強さを実感する。	・他事業との関係もあり、時間が取れず調査数が伸び悩んだ。 ・調査結果の分析がまだ行われていない。
3. 基金の設立・運営	(1) 寄付金募集のPRと受入れの開始 「みなと基金」への寄付金の受け入れを始めた。	・マンスリークルー制度スタート。 ・企業からのご寄付を第一号で頂いたことは市内企業へのPRになった。	・運営委員会の立ち上げができず、基金の運営ができなかった。 ・資金力の基盤となるものだが、目標には遠く及ばなかった。
4. 会員制度設計	(1) みなと会員100名の加入 認定NPO法人を目指すため、賛助会員に相当するみなと会員を100名ご加入頂くことを目標とした。	・みなと会員28名 ・正会員10名、マンスリークルー2名、学生会員4名(合計44名)	・会員フォローメニューの実践やsalesforceの導入が出来ていないので、会員数が増えても対応できない恐れがあり、大きなPRが出来なかった。
	(2) 広報媒体の作成、PR、会員のフォロー WEBサイトの構築や、活動内容のPRが行いやすい媒体を作成した。	・WEBサイト、FBページの構築 ・Twitterアカウントの作成 ・4コマ説明資料案の作成	・WEBサイトの有効活用を模索中。
5. 組織・運営体制の確立	(1) 運営・財務・広報委員会の立ち上げ	・運営規約案の作成	・委員会規約を案から先に進められなかった。





# みなと計画 2018年度活動の様子



**みなとの24時間**  
 2018年7月7日  
 みなと計画設立記念イベント



**Blue D-DAY 2018**  
 Hokkaido youth sessions  
 受付はこちら



**ふり返りワークショップ**  
 2018年12月8日  
 会員向け事業報告会



**Blue D-DAY**  
 2018年10月13日  
 若者フォーラム